

川のお助けガイド

自然環境は、楽しく、潤いあるひとときを過ごすことのできるかけがえのない存在。でも、時として私たちの想像を越えた危険な横顔を見ることがあります。

この川のお助けガイドには矢作川における水難事故の危険性のある箇所や、過去の水難事故発生箇所を掲載しています。また、河川利用や緊急時に役に立つ情報、河川利用マナーなども併せて紹介しています。

これから河川利用を計画する方、実際に河川を利用されている方など、安全に河川環境に親しむために、河川水難事故を未然に防ぐ川のお助けガイドをご活用ください。

この地図の使い方

●水難事故の危険性

水難事故の危険性がある箇所には、それぞれの危険内容を下のイラストマークで示しています。また、個別の危険要因なども併せて掲載していますので参考してください。

*ご紹介している情報は、過去の水難事故履歴や取材などによりその危険性が認められた箇所に限っています。河川の現況や気象状況などによって、水難事故の危険性は大きく異なってきます。他の箇所でも、十分に注意してご利用ください。



…樋門、取水口など

●河川利用や緊急時に役立つ情報

下のマークで表記しています。

P…駐車場 T…トイレ

…放流サイレン

●河川の右岸、左岸について

河川を上流から下流に向かって眺めた時、右側を右岸、左側を左岸と呼びます。

本リーフレットに掲載されている内容は令和5年10月10日現在の情報です。

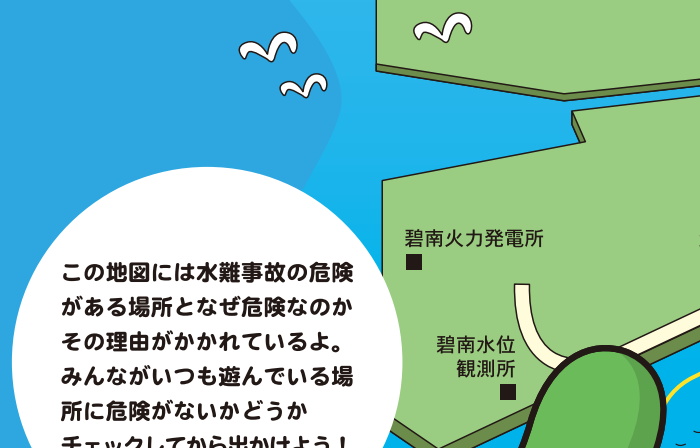
矢作川／下・中流部(河口から渡橋まで)

矢作川のあらまし

矢作川は、長野県の中央アルプス南端の大川入山(標高1,908m)にその源を発し、愛知・岐阜県境の山岳地帯を流れ、三河湾へと注ぐ延長約118kmの河川です。

矢作川は明治末期まで川船による舟運に広く利用されてきました。また江戸時代からは、農業用水として沿川の農地を潤し、その後、明治中期の明治用水や枝下用水の完成により、「日本のデンマーク」と呼ばれる豊かな農地が拓かれるなど、西三河の発展を支えてきました。

大自然の中のリゾートエリアとして親しまれている上流部、流域の中心的役割を果たし、歴史にちなんだ資源も多く点在する中流部、野鳥の宝庫であるとともに、ウインドサーフィンやジェットスキーなどのアウトアスポーツで賑わう河口部など、様々な魅力があふれる矢作川には、西三河だけでなく、県外からも大勢の方が訪れています。



この地図には水難事故の危険がある場所となぜ危険なのかその理由がかかれていたり、みんながいつも遊んでいる場所に危険がないかどうかチェックしてから出かけよう！

川に行く前に準備しておこう ①

いざという時、役立つグッズ

川では思わぬことでケガをしたり、熱中症や低体温症などの危険もあります。市販のファーストエイドキットに自分に必要な医薬品を加えるなどして持参しましょう。また、ビニール袋は、ゴミを入れるだけでなく、ぬれた衣服を入れたり、時には雨具のかわりにもなります。余分に持っていくと便利です。



ファーストエイドキットは必需品

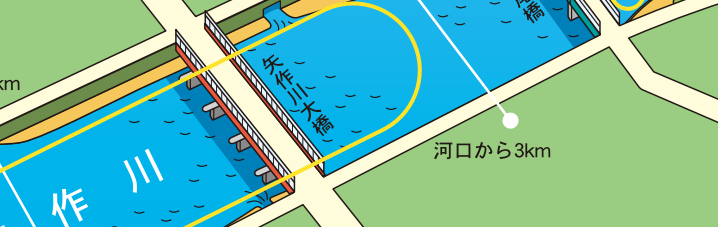
ゴミ袋は雨具にもなる



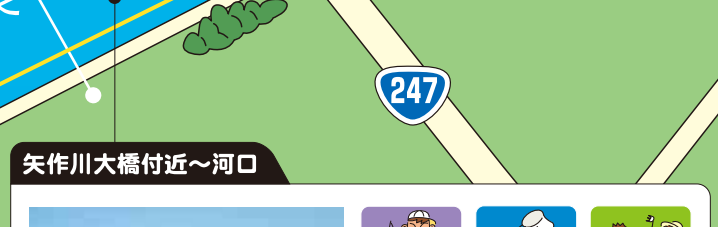
古い棚尾橋の橋脚が残っています。パイに注意を促していますが、水上バイクやウインドサーフィンの利用者は衝突の危険がありますので注意して下さい。



アサリ・シジミ取りでにぎわいますが深みなどの危険箇所があります。干潮区間なので中州での孤立にも注意が必要です。また、水上バイクの利用もみられますが、他の利用者とのトラブルが発生しています。川はたくさんの方が集う憩いの場所です。危険行為や近隣住民への迷惑行為(騒音、ゴミ捨てなど)のないよう、マナーを守って利用しましょう。



また、水中で活動するためには、常に頭部を水面から出して呼吸する必要があります。特に河川には水面下の様々に複雑な流れや強い流れがあり、陸上からの目視ではなかなか判別しにくい深みがあります。このような川の環境下で頭部を水面に出し続けるには人間の持つ浮力だけでは限界があり、何らかの形で浮力を補う必要があります。その最も効果的で効果的な手段がライフジャケットを着用することです。



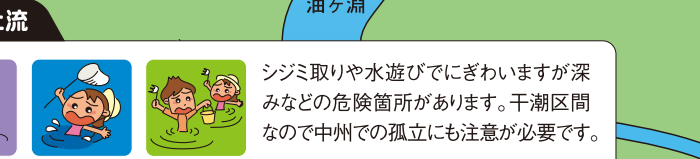
また、水中で活動するためには、常に頭部を水面から出して呼吸する必要があります。特に河川には水面下の様々に複雑な流れや強い流れがあり、陸上からの目視ではなかなか判別しにくい深みがあります。このような川の環境下で頭部を水面に出し続けるには人間の持つ浮力だけでは限界があり、何らかの形で浮力を補う必要があります。その最も効果的で効果的な手段がライフジャケットを着用することです。

川に行く前に準備しておこう ②

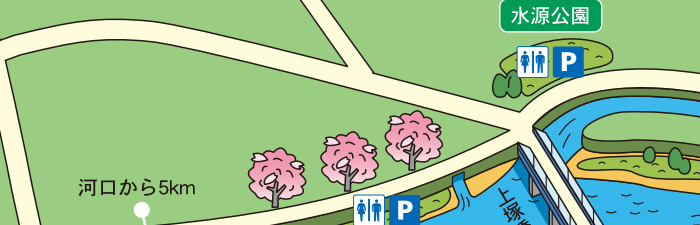
天候を忘れずに確認

当日の天候は忘れずに確認しておきましょう。遊びに行く箇所だけでなく、上流地域の天候もチェックしておくことより安全です。テレビ、ラジオ、電話以外でも、日本気象協会のほか、新聞社や放送局、検索サイトなど、インターネットを利用して地域の気象情報を確認できます。また、中部電力のサイトでは雷の発生状況をリアルタイムに見ることができます。

- (一財)日本気象協会 気象情報サイト…<http://tenki.jp/>
- 中部電力(株) 雷情報…<http://www.chuden.co.jp/kisyo/index.html>



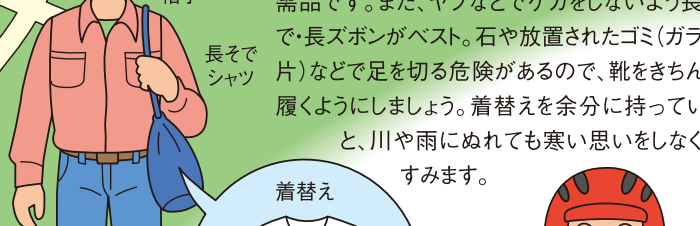
シジミ取りや水遊びでにぎわいますが深みなどの危険箇所があります。干潮区間なので中州での孤立にも注意が必要です。



また、水中で活動するためには、常に頭部を水面から出して呼吸する必要があります。特に河川には水面下の様々に複雑な流れや強い流れがあり、陸上からの目視ではなかなか判別しにくい深みがあります。このような川の環境下で頭部を水面に出し続けるには人間の持つ浮力だけでは限界があり、何らかの形で浮力を補う必要があります。その最も効果的で効果的な手段がライフジャケットを着用することです。



日影の少ない河川敷では、ツバのある帽子は必需品です。また、ヤブなどでケガをしないよう長そで・長ズボンがベスト。石や放置されたゴミ(ガラス片)などで足を切る危険があるので、靴をきちんと履くようにしましょう。着替えを余分に持っていき、川や雨にぬれても寒い思いをしなくて済みます。



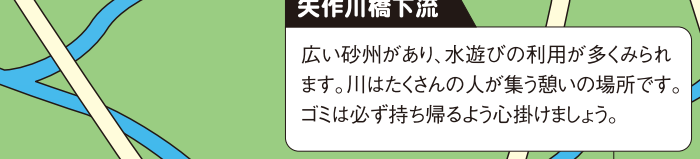
また、水中で活動するためには、常に頭部を水面から出して呼吸する必要があります。特に河川には水面下の様々に複雑な流れや強い流れがあり、陸上からの目視ではなかなか判別しにくい深みがあります。このような川の環境下で頭部を水面に出し続けるには人間の持つ浮力だけでは限界があり、何らかの形で浮力を補う必要があります。その最も効果的で効果的な手段がライフジャケットを着用することです。

川に行く前に準備しておこう ④

川のこんな場所には危険がいっぱい



水難事故から未然に身を守るためには、危険な場所に近寄らないことが一番確実な方法です。では、いったい川のどんな箇所に危険がひそんでいるのか。これから、遊ぼうとしている場所と比較してみてください。



多少量が生えていても中州は川そのもの。増水すれば水に浸り、特に逃げ道の無い中州は水難事故の発生が多い。



矢作川橋下流 広い砂州があり、水遊びの利用が多くみられます。川はたくさんの方が集う憩いの場所です。ゴミは必ず持ち帰るよう心掛けましょう。



矢作川橋下流 広い砂州があり、水遊びの利用が多くみられます。川はたくさんの方が集う憩いの場所です。ゴミは必ず持ち帰るよう心掛けましょう。



矢作川橋下流 広い砂州があり、水遊びの利用が多くみられます。川はたくさんの方が集う憩いの場所です。ゴミは必ず持ち帰るよう心掛けましょう。

川に行く前に準備しておこう ⑤

川の状況をチェックしておこう

上流に降雨があると川は増水します。また、ダムからの放流があると水位は増すことになります。現在では、河川管理者がホームページなどで24時間の川のライブ画像を配信していますので、チェックしてから出かけましょう。

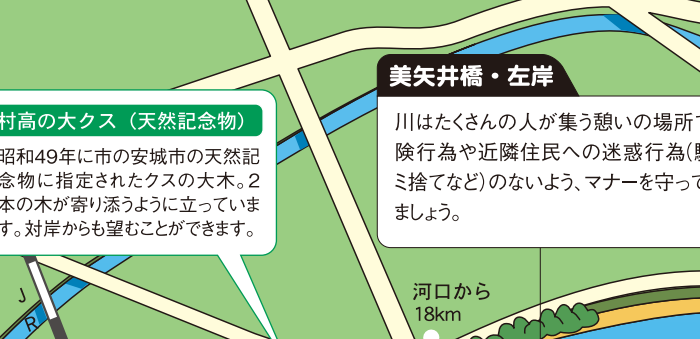
- 河川ライブ画像(国土交通省 豊橋河川事務所) <https://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/kasen/index.html>



河川カメラで見える矢作川の様子

川に行く前に準備しておこう ⑥

携帯で河川情報がチェックできる



外からでも川の最新の状況をチェックできる裏技があります。携帯電話のサイトからアクセスでき、国が管理する109水系の河川に関する情報を提供しています。ちょっと雲行きがやましいなど、天候の変化が予想される時は、まだ、遅くありません。迷わずアクセスしてみましょう。

- 提供している主な情報

- ①雨量[現況、履歴、経時グラフ表示]
- ②水位[現況、履歴、指定水位の超過表示、断面図・経時グラフ表示]
- ③ダム情報[流域平均雨量、流入量、放流量、現貯水量、貯水率]

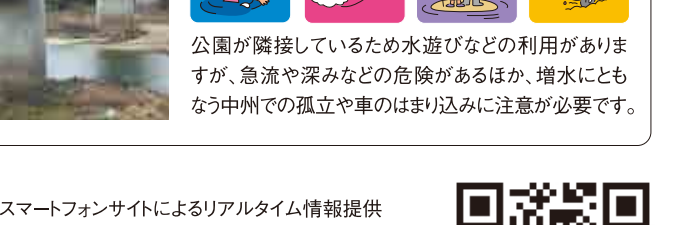
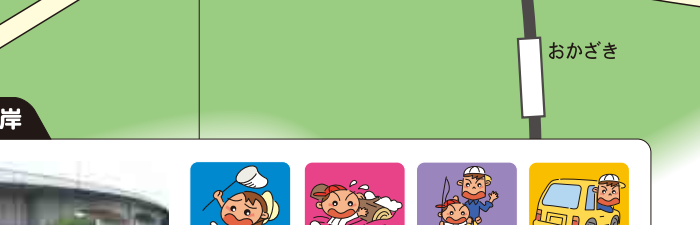


川に行く前に準備しておこう ⑦

スマートフォンによるリアルタイム情報提供



右のバーコードを携帯カメラで撮影してアクセスすることができます。※対応機種に限り。



河川カメラで見える矢作川の様子